

日時：平成 30 年 12 月 10 日（月）

19：00～21：00

会場：市役所 4 階 第 2 委員会室

出席者：井上委員、笠島委員、杉森委員、千葉委員、野尻委員

鯖江市：中嶋政策経営部長、斉藤めがねのまちさばえ戦略室長、法水参事、今宮主事

1 開会

2 外部評価実施

① 学生との連携によるうるしの里活性化事業（所管：商工政策課）（19：00～19：55）

<概要説明>（宮本課長、乙坂参事出席）

◆事務事業調書および補足資料に基づき概要説明

<質疑応答>

委員長：地域おこし協力隊の活動費を充てているとのことだが、1 年間この事業に関わっているのか。また、当初からアートキャンプのために地域おこし協力隊になっているのか。

所管課：隊員は事務局を務めており、ほぼ 1 年を通して事業に関わっている。元々アートキャンプ出身者であり、一昨年からの隊員であり、今年度で期間が満了する。それまでは別の財源を充てていた。

委員：交通費は誰が使うものか。個人的な交通費が含まれていないのか。

所管課：地域おこし協力隊と学生のレンタカー代などの交通費である。主に京都との行き来に使用している。事業に必要な往来であり、地域おこし協力隊の個人的な交通費ではない。

委員：コスト削減の余地はどこにあるのか。

所管課：京都の活動拠点の家賃やレンタカー代である。時間単位ではなく月単位、年単位で借りることでコストを抑えられないかと思っている。

委員：マンネリ化との声も聞こえる。初心に帰って、学生になぜ始まった事業か伝えてほしい。

所管課：学生に対しては、オリエンテーション時に生活態度なども含めはっきりと伝えている。当初は福井豪雨の災害復興として、また、近年は地域振興、まちづくりの色合いが強くなってきたところではあるが、写真展や空き家でのアート活動を通して、アートキャンプの成り立ちを忘れないような取組みを継続して行っている。

委員：学生はどういった経緯で参加するのか。大学で選抜をしているのか。

所管課：参加した大学生の呼びかけで集まることが多い。選抜ではなく、共同生活を伴う過

酷な合宿であり、志が高く、自ら進んで参加する学生が集まってくるため少数精鋭としている。

委員：来年度の地域おこし協力隊は誰か決まっているのか。もし決まらなければ来年度事業の予算はどうなるか。

所管課：まだ決まっていない。後任となる方を現隊員が模索しており、候補者が挙がっている。また、来年度の財源としてふるさと納税を募っている。加えて、アートキャンプ自ら財源を稼げるようなプロジェクトを実行するよう何年も前から伝えてはいるが、そこまで至っていない。

委員長：地域おこし協力隊の存在が多きいようだが、隊員が変わることで事業も変わるのか。

所管課：委員のご意見でもマンネリ化との声もあったが、隊員が変わることで新たな取り組みとなることを期待する。

委員：住民のニーズはどのような調査によるものか。

所管課：河和田地区でのアンケートに基づいている。また、キャンプ期間以外での地域行事への参加、小学校での授業、漆器職人との交流などを通して、住民からの好意的な意見を聞いている。

委員：見た方が参加したくなるような、とても良い報告書だと思う。どこで手に入るか。

所管課：1000部作成し、関係者や住民の方に配布している。インターネットに掲載することも考えている。

委員長：住民の方からのマンネリ化といった声はあるか。

所管課：プロジェクトは毎年変わり、住民の方も新たなアート作品や交流に触れることもあり、好意的に学生を受け入れてくれているものと思っている。

委員：学生の交通費、宿泊費も入っているか。

事務局：お見込みの通り。食費は自分たちで賄っているところもある。

委員：まちづくりとしての主眼は何か。イベントとしての、集客、移住者増を期待するものではないか。

所管課：学生が来ることで内発的な地域の活性化につながっている。以前、河和田くらしの祭典といったイベントも生まれた。また、河和田住民の人の好さに触れ、実際移住した学生もいる。

委員：京都の大学が主なのか。遠いところだと交通費がかさむか。

委員：収支に差がないのはなぜか。

所管課：事務局サイドで端数処理をしている。市としては領収書をチェックし、不要な支出はない。また、学生も必要な支出を行っており、市の予算に合わせて決算書を作成しているようである。

委員長：アートキャンプの参加者が恩返しの意味で、ふるさと納税を行うこともあるのか。また、漆器などの商品開発の面で恩返しするということもあるのか。

所管課：ふるさと納税での財源を募ることは、事務局サイドの提案であって、事務局からアートキャンプ卒業生に声をかけ、ふるさと納税をしていただいている例もある。また、お世話になった河和田に恩返ししたいということで、河和田でデザイン会社を

興した方がいる。

<方向性判断>

委員長：担当課の判断は維持となっている。方向性としては、事務改善、内容縮小が考えられるが、いかがか。

委員：維持で良いのでは。(全会一致)

委員長：それでは、維持とします。

付帯意見として

- ・事業の存続を図るために、財源確保及び、地域おこし協力隊が継続されるよう努めてもらいたい。
- ・内部評価にもあるように、コスト削減を実行してもらいたい。
- ・地域おこし協力隊の交代にあたっては、新しいことを積極的に取り入れ、事業のマンネリ化の解消につなげてもらいたい。

② ITに親しむ講座事業(所管：情報統計課)(20:00~20:50)

<概要説明>(高島課長)

◆事務事業調書および補足資料に基づき概要説明

<質疑応答>

委員：高齢者向けの事業であるのに、基本目標が「若者が住みたくなるまちの創造」になるのか。

事務局：総合戦略の4つの基本目標のひとつであり、体系上この目標に紐づけされる。

所管課：デジタルデバイドの解消が目的であり、この事業は高齢者をターゲットにしているというところである。

委員：提案型となったのはいつからか。

所管課：2年目となる平成27年度からである。

委員：受講者が少ないように感じる。どういった広報をしているか。

所管課：市広報誌と公民館へのポスターであったが、今年度は福井新聞に折込広告をしている。

委員：町内掲示はどうか。やりたい方はいると思う。

委員：回覧板へは。

所管課：市広報誌へ掲載している関係上、町内掲示、回覧板は遠慮している。

委員：対象を18歳以上としているが、お昼の開講では高齢者しか受講できないのでは。

所管課：昨年度、夜の時間帯で行ったが、受講者が少なく、ターゲットを高齢者としているため、今年度は時間帯をお昼にした。

委員：iPadに限定しているのはなぜか。受講者も限定されるのでは。

所管課：androidは様々な使い方があり、教え方が難しくなる。初心者への講座には向いていないものと考えている。

委員：情報(IT)の危険性は教えているか。最近詐欺事件が増えているので伝えてもらい

たい。

所管課：IT の危険性については、重要なことでもあるので講座でも教えている。

委員長：目標値はどのように持っているか。

所管課：委託分としては200人。直営分、IT フェス分で200人と考えている。昨年度は大雪で高年大学が開校されなかったこともあり、大幅に減少した。今年度委託分の200人の目標は広告の効果もあり達成する見込みである。直営分は昨年ほどの落ち込みはないものの、伸びていく見込みもない。

委員：IT フェスが別事業であるので、目標値に含めるべきではない。

事務局：目標値については精査します。

委員：提案型のほうは、市の iPad を使用しているのか。

所管課：市の iPad である。iPad の使用料は提案型、直営分、他課職員使用のトータルとなる。

委員：iPad は毎年買っているのか。

所管課：2年間のリース契約である。リース後、市の所有となる契約としている。4、5年は使用できる見込み。

<方向性判断>

委員長：このままでは良くないという印象。事務改善でどうか。(全会一致)

付帯意見として

- ・予算の持ち方が適切か。説明が可能な予算の持ち方をお願いしたい。
- ・地区の掲示板にポスターを掲示するなど、ターゲットとなる高齢者に合わせた広報を行ってはどうか。
- ・災害用アプリなど、高齢者にとって必要性のあるアプリを紹介してもらいたい。

3 閉会

<外部評価報告書について>

委員長：報告書についてはみなさんの意見を纏め、事務局と作成し市長に報告する。報告書作成にあたり、外部評価、または行政評価について、ご意見はないか。

委員：他事業の目標値を加えているものがあつた。今回評価した4事業以外にもないか、今一度精査してもらいたい。

委員：成果指標の目標値に根拠がないように思う。根拠のある目標を設定し、事業を遂行してもらいたい。

委員：目標の達成に向けて、近づけるような努力を。

<市長への報告について>

委員長：井上、野尻副委員長両名にて市長へ報告書提出

日時：平成30年12月27日(木)16:30～